

続・両不等式

たかはし としお
高橋 敏雄

1. はじめに

前回、はじめて“両不等式”を用いて、いくつかの2数の大小の問題を解説、紹介した。今回は、2つの関数の大小について考えてみた。両不等式は、現在、試作の段階であり、理論、論理のそれぞれの面で、はたして、間違いがないのか、の確認をまだ得ていない。是非、諸氏からの意見を聞きたいものである。

2. 関数の両不等式

<定義>

ある区間において、2つの関数 $f(x)$, $g(x)$ の値の大小が不明であるとき、

$$f(x) <> g(x)$$

と記し、この式を両不等式と呼ぶ。

両不等式の基本的な定理を記す。

① 「 $a <> b \implies c <> d$ が真」ならば、その逆

「 $c <> d \implies a <> b$ が真」が成り立つ。

(証) 両不等式においては、等号も含むものとする。

「 $a <> b \implies c <> d$ 」の対偶

「 $d <> c \implies b <> a$ 」は真である。すなわち、不等号の向きは同じだから、 $c <> d \implies a <> b$ としてもよい。

これは、 $a <> b \implies c <> d$ が成り立てば、逆の $c <> d \implies a <> b$ が成り立つことを示している。

次に、いくつかの定理を並べておきたい。明らかである場合(既知)については、省略をしている。また、関数は連続 n 回微分可能とする。

② 区間 $[a, b]$ で定義された、関数 $f(x)$ について

(i) 常に $f'(x) > 0$ (単調増加) のとき

$$a <> b \iff f(a) <> f(b)$$

(ii) 常に $f'(x) < 0$ (単調減少) のとき

$$a <> b \iff f(b) <> f(a)$$

②' 閉区間 $[a, b]$ において、関数 $f(x)$ が $f(a)=0$ 、开区間 (a, b) において微分可能のとき

$$f'(x) <> 0 \implies f(x) <> 0$$

③ 関数 $f(x)$ は、閉区間 $[a, b]$ において、 $f(a)=f(b)=0$ 、开区間 (a, b) において2回微分可能とするとき

$$f''(x) <> 0 \implies 0 <> f(x)$$

③' 関数 $f(x)$ は、区間 $[a, b]$ において、 $f(a)=g(a)$, $f(b)=g(b)$ とするとき

$$f''(x) <> g''(x) \implies g(x) <> f(x)$$

(証) $F(x)=f(x)-g(x)$ とおく。

条件より、 $F(a)=f(a)-g(a)=0$

$F(b)=f(b)-g(b)=0$ かつ、

$F''(x)=f''(x)-g''(x)=0$ が成り立つ。

よって、②より $0 <> F(x)$ i.e. $g(x) <> f(x)$ が成り立つ。 ■

問題1 $0 \leq x \leq 1$ のとき、 $1-x+x^2e^x \leq e^x$ を示せ。

(解) $f(x)=1-x+x^2e^x$, $g(x)=e^x$ とおく。

$$f(0)=g(0)=1, f(1)=g(1)=e$$

よって、 $f(x) <> g(x)$ とおくと、

$$f'(x) <> g'(x) \dots \dots (\text{意味のない式: 棄て式})$$

$$f''(x) <> g''(x)$$

$$\therefore 2e^x + 2xe^x + 2xe^x + x^2e^x <> e^x$$

$$\therefore 1 + 4x + x^2 <> 0$$

$$x \geq 0 \text{ より, } 1 + 4x + x^2 < 0$$

$$f''(x) < g''(x)$$

$$\therefore g(x) > f(x) \text{ i.e. } 1 - x + x^2e^x < e^x \quad \blacksquare$$

④ 2つの関数 $f(x)$, $g(x)$ は閉区間 $[a, b]$ において、 $f(a)=g(a)$ 、开区間 (a, b) で微分可能とする。

$$f'(x) <> g'(x) \implies f(x) <> g(x)$$

(証) これは②'による。

$F(x)=f(x)-g(x)$ とする。

$$F(a)=f(a)-g(a)=0$$

$$\text{また } F'(x)=f'(x)-g'(x)$$

もし $f'(x) > g'(x)$ ie. $F'(x) > 0$ とすると, $a < x$ より, $F(a) < F(x) \therefore F(x) > 0$
 $\therefore f'(x) > g'(x) \implies f(x) > g(x)$
 $F'(x) < 0$ とするときも同様に
 $f'(x) < g'(x) \implies f(x) < g(x)$
 $\therefore f'(x) < > g'(x) \implies f(x) < > g(x)$ ■

(補題) ④は, また, 次のように拡張できる.

$f(a) = g(a)$ とする.

(i) $x \geq a$ のとき, $f'(x) < > g'(x) \implies f(x) < > g(x)$

(ii) $x \leq a$ のとき, $f'(x) < > g'(x) \implies g(x) < > f(x)$

(証は④と同様)

問題2 $x \geq 0$ のとき, $\frac{x}{1+x} \leq \log(1+x)$ を示せ.

(解) $f(x) = \frac{x}{1+x}$, $g(x) = \log(1+x)$ とおく.

$f(0) = g(0) = 0$ より $\frac{x}{1+x} < > \log(1+x)$

両辺を x で微分 $\frac{1}{(1+x)^2} < > \frac{1}{1+x}$

$x \geq 0$ より, $1+x \geq 1 \therefore 1 < > 1+x$

$\therefore 0 < > x \therefore 0 < > x$

$\therefore \frac{x}{1+x} \leq \log(1+x)$ (等号は $x=0$ のとき) ■

④' 2つの関数 $f(x)$, $g(x)$ は, 开区間 $[a, b]$ で n 回微分可能とする.

$f(a) = g(a)$, $f'(a) = g'(a)$, \dots ,

$f^{(n-1)}(a) = g^{(n-1)}(a)$ のとき.

$f^{(n)}(x) < > g^{(n)}(x) \implies f(x) < > g(x)$

(証) ④を繰り返したらよい. ■

このとき, $f'(x) < > g'(x) \implies f''(x) < > g''(x) \dots$
 $\implies f^{(n)}(x) < > g^{(n)}(x) \implies f(x) < > g(x)$

問題3 $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ のとき, $\theta < \frac{1}{2}(\sin \theta + \tan \theta)$

を示せ.

(解) $f(\theta) = \theta$, $g(\theta) = \frac{1}{2}(\sin \theta + \tan \theta)$ とおく.

$f(0) = g(0)$ が成り立つ. $\theta < > \frac{1}{2}(\sin \theta + \tan \theta)$

の両辺を θ で微分

$1 < > \frac{1}{2} \left(\cos \theta + \frac{1}{\cos^2 \theta} \right)$

$\therefore 2 \cos^2 \theta < > \cos^3 \theta + 1$

$\therefore 0 < > \cos^3 \theta - 2 \cos^2 \theta + 1$

両辺は $\theta=0$ で等しいから, 両辺を θ で微分

$0 < > 3 \cos^2 \theta \cdot (-\sin \theta) - 4 \cos \theta \cdot (-\sin \theta)$

$\therefore 0 < > -3 \cos^2 \theta \sin \theta + 4 \sin \theta \cos \theta$

$\therefore 3 \cos^2 \theta \sin \theta < > 4 \sin \theta \cos \theta$

$0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ より, $\sin \theta \cos \theta > 0$ であるから

$3 \cos \theta < > 4 \therefore 3 \cos \theta < > 4$

$\therefore \theta < > \frac{1}{2}(\sin \theta + \tan \theta)$

$\therefore \theta < \frac{1}{2}(\sin \theta + \tan \theta)$ ■

問題4 $x > 0$ のとき $\cos x < 1 - \frac{x^2}{2} + \frac{x^4}{24}$ を示せ.

(解) $f(x) = \cos x$, $g(x) = 1 - \frac{x^2}{2} + \frac{x^4}{24}$ とおく.

$f(0) = g(0)$ より $\cos x < > 1 - \frac{x^2}{2} + \frac{x^4}{24}$

x で微分 $-\sin x < > -x + \frac{1}{6}x^3$

$\therefore x < > \sin x + \frac{1}{6}x^3$

両辺は, $x=0$ のとき, 等しくなるから,

x で微分 $1 < > \cos x + \frac{1}{2}x^2$

更に, $x=0$ で, 両辺等しいから,

x で微分 $0 < > -\sin x + x$

$\therefore \sin x < > x$

更に, $x=0$ で成り立つから, 両辺微分

$\cos x < > 1$

$\therefore \cos x < > 1 - \frac{x^2}{2} + \frac{x^4}{24}$

$\therefore \cos x < 1 - \frac{x^2}{2} + \frac{x^4}{24}$ ■

問題5 $x > 0$ のとき, 任意の自然数について,

$e^x > 1 + \frac{x}{1!} + \frac{x^2}{2!} + \dots + \frac{x^n}{n!}$ が成り立つことを証

明せよ.

(証) 略

⑤ 閉区間 $[a, b]$ で, $f(x)$, $g(x)$ は積分可能とする.

$f(x) < > g(x) \implies \int_a^b f(x) dx < > \int_a^b g(x) dx$

⑥ 2つの数列 $\{a_n\}$, $\{b_n\}$ において,

$\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = a$, $\lim_{n \rightarrow \infty} b_n = \beta$ (収束) とすると

$a_n < > b_n \implies a < > \beta$

□ $f(x) < g(x) \implies h(x) < i(x)$ は、
 $f(x) < g(x)$ かつ $h(x) < i(x)$ と考えてよいから、前回の和、差、積、商の公式から、新たな式ができる可能性を含んでいる。それは次回に譲る。

3. おわりに

両不等式が一般的に認知されたとするならば、不等式の証明が、今までよりは、簡単になるのではないかと、思う。実は私としては、そうなることを願うものである。

前回と今回にわたって、両不等式を紹介したが、いずれもまだ、充分完成したとは言えない。また、益々、新しい性質が出てくるかも知れない。その意味からも、多くの諸氏からの意見を期待するものである。

(長崎県立大村高等学校)

